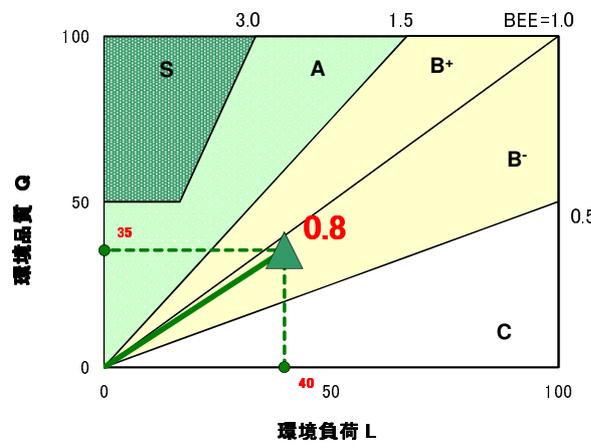


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	ナフコ松橋店	階数	地上1階、地下-階		
建設地	熊本県宇城市松橋町曲野片林147番	構造	S造		
用途地域等	2種住居	平均居住人員	0人		
省エネ:地域区分	7地域	年間使用時間	3,650時間/年		
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工時期	2025年5月 予定	評価の実施日	2025年2月1日		
敷地面積	12,176 m ²	作成者	高本		
建築面積	6,908 m ²	確認日	2025年2月28日		
延床面積	6,908 m ²	確認者	時川		

2 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



環境品質 C

環境負荷 L

BEE = 0.8

BEE = 0.8

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

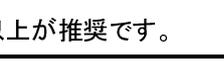
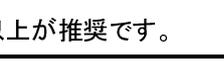
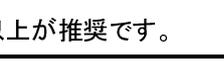
■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

75%

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価		評価点												
		74												
<p>【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進</p> <p>【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現</p> <p>【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全</p> <p>【重点事項4】 循環型社会の実現</p>	<p>評価点</p> <p>82.6</p> <p>58.7</p> <p>67.8</p> <p>76.5</p>	<p>■ 熊本県重点評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>判定値(評価点)</th> <th>ランク表示</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100点以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>80点以上100点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>60点以上80点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40点以上60点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40点未満</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※評価点は、100点以上が推奨です。</p>	判定値(評価点)	ランク表示	100点以上		80点以上100点未満		60点以上80点未満		40点以上60点未満		40点未満	
判定値(評価点)	ランク表示													
100点以上														
80点以上100点未満														
60点以上80点未満														
40点以上60点未満														
40点未満														

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ナフコ松橋店	階数	地上1階、地下-階
建設地	熊本県宇城市松橋町曲野片林147番	構造	S造
用途地域等	2種住居	平均居住人員	0人
省エネ:地域区分	7地域	年間使用時間	3,650時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年5月 予定	評価の実施日	2025年2月1日
敷地面積	12,176 m ²	作成者	高本
建築面積	6,908 m ²	確認日	2025年2月28日
延床面積	6,908 m ²	確認者	時川



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE 0.8 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.7

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価

評価点 = **74**

重点事項1: 温室効果ガス排出削減の推進	82.6	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現	58.7
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全	67.8	重点事項4: 循環型社会の実現	76.5

重点事項の評価(レーダーチャート)

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

■ LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									2.4
Q1 室内環境					0.40		-		2.5
1 音環境				1.8	0.15		-		1.8
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	-		
1.2 遮音				1.0	0.40		-		
1 開口部遮音性能				1.0	1.00	3.0	-		
2 界壁遮音性能				3.0	-	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
1.3 吸音				1.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境				1.8	0.35		-		1.8
2.1 室温制御				2.6	0.50		-		
1 室温				3.0	0.50	3.0	-		
2 外皮性能				1.0	0.17	3.0	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.33		-		
2.2 湿度制御				1.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式				1.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境				3.0	0.25		-		3.0
3.1 昼光利用				3.0	0.50		-		
1 昼光率				3.0	-	3.0	-		
2 方位別開口				3.0	-	3.0	-		
3 昼光利用設備				3.0	1.00	3.0	-		
3.2 グレア対策					-		-		
1 昼光制御				3.0	-	3.0	-		
3.3 照度				3.0	-	3.0	-		
3.4 照明制御				3.0	0.50	3.0	-		
4 空気質環境				3.5	0.25		-		3.5
4.1 発生源対策				4.0	0.50		-		
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆以上 全ての建材に使用		4.0	1.00	3.0	-		
4.2 換気				3.0	0.30		-		
1 換気量				3.0	0.50	3.0	-		
2 自然換気性能				3.0	-	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	-		
4.3 運用管理				3.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視				1.0	0.50		-		
2 喫煙の制御		館内完全禁煙		5.0	0.50		-		
Q2 サービス性能					0.30		-		2.9
1 機能性				2.9	0.40		-		2.9
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40		-		
1 広さ・収納性				3.0	-	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	3.0	-		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00		-		
1.2 心理性・快適性				2.6	0.30		-		
1 広さ感・景観		売場天井高さ3.6m以上有(4.5m)		5.0	0.33	3.0	-		
2 リフレッシュスペース				2.0	0.33		-		
3 内装計画				1.0	0.33		-		
1.3 維持管理				3.0	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				2.7	0.30		-		2.7
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				1.6	0.20		-		
1 空調・換気設備				1.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20		-		
3 電気設備				3.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法				1.0	0.20		-		
5 通信・情報設備				1.0	0.20		-		

3 対応性・更新性			3.2	0.30	-	-	3.2
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1 階高のゆとり	階高3.7m以上有(平屋)		5.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ	空間にて動かせないものは少ない。売場が主である 比率:0.05		5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			2.2	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			1.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			1.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			1.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性							3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.13	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	[BEQ][BEIm] = 0.73		4.4	0.63	-	-	4.4
4 効率的運用			2.0	0.25	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	鉄骨造であり、躯体と内装仕上材が安易に分別可能		4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	発泡剤を用いた断熱材使用していない		5.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮	高効率機器を採用する		4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止	燃焼機器を使用しない		5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	適切な駐車量確保 荷捌きスペース確保		4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.33	-	-	
2 振動			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

■ 環境関連の配慮事項

ナフコ松橋店

印刷:モノクロ
設定済み

・適宜、箇条書き等で記入してください。

・キーボード操作:改行の際は【Alt】キー&【Enter】キーで次の行に進みます。

計画上の配慮事項		※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・シンプルな外観とし周辺に影響の少ない建物として計画した。 ・環境関連は、特にQ3向上を重視した。 また、LR1～3についても可能な限り配慮を図った。 	
Q1 室内環境	建築材料はF☆☆☆☆建材を使用し、良好な室内環境に努めた。	
Q2 サービス性能	売場の天井高を高くすることで開放的な空間とした。	
Q3 室外環境 (敷地内)	なるべく空地を確保し緑の量も確保した。又、派手な色彩とはせず落ち着いた色彩とした。	
LR1 エネルギー	高効率機器を採用し、省エネルギー化に努めた。	
LR2 資源・マテリアル	断熱材は全てノンフロンを採用した。	
LR3 敷地外環境	適切な数の駐車駐輪スペースを計画し、周辺の交通負担軽減に考慮した。	
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p> <p>※ほか、敷地内の他の建築物との関係性(例:既存の〇〇棟とは完全に別棟扱い)や各種諸元、CASBEE評価に際して『仮想敷地』を設定している場合の面積(例:仮想敷地として……㎡)など、明記しておきたい情報があれば、必要に応じてこの欄を活用してください。</p>	

建物名称 ナフコ松橋店

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		74
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				82.6	0.40	33.04
Q1-2.1.2	外皮性能	1.0	0.09			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.08			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.00			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	0.0	0.00			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.24			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.4	0.35			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.12			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.12			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				58.7	0.20	11.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				67.8	0.20	13.56
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.29			
LR2-1.1	節水	3.0	0.43			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.29			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
④ 循環型社会の実現				76.5	0.20	15.30
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数